【原著】

21 世紀プログラムの 10 年

林 篤裕，副島 雄児，田尾 周一郎，武谷 峻一
（九州大学 基幹教育院）

学部横断型教育を行う九州大学の 21 世紀プログラムは，学内の全 11 学部で開設されている講義を本人の興味・関心に応じて履修することができるため，個々人でカリキュラムが異なる。設立されて 10 年が経過したので，その間に在籍した学生の履修状況を調べた。その結果，代表的な履修パターンというものは存在しなかったものの文系学部での履修が多く，また 3 つに類型化した履修タイプごとに履修学部数や，文系学部での単位取得率に傾向があることが判った。

1 はじめに

九州大学の掲げる教育憲章では 4 つの原則，すなわち人間性，社会性，国際性，専門性の獲得を謳っている。これら 4 原則のバランス良い教育手法の開発を目指し，加えて，従来の日本の大学に置ける学部・学科単位での教育という概念にとらわれない教育として，名称の通り 2001 年春に 21 世紀プログラム（以下， 21cp と略記）はスタートした。その教育理念は“ 21 世紀を担う人材の育成”を標榜し，「創造を引き出す知識と基礎的な知識の獲得」，「専門性の高いゼネラリストとしての素養」，「『外』に開かれた知識の獲得」として具体的に示されている。

21cp はこれらの原則や理念を達成するために，特定の学部教育に固定することなく，九州大学にある 11 の学部を横断的に学生の関心に応じて自由に選択し必要単位を揃えて卒業していくものであり，複数の学部に興味のある学生を受け入れる学際的なプログラムである。

早いもので開設されて 10 年が経過し，2011 年 3 月には第 7 期生が卒業し， 4 月には第 11 期生が入学してきた。そこで，本論文ではその間に入学した学生を卒業生と在学生に分けて修学特性について調査し， 21cp の開設理念と照らし合わせて考察を行う。

表 1　単位取得学部数

単位取得学部数	1期生		2期生		3期生		4期生		5期生		6期生		7期生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1学部	1	5%			2	11%			1	3%	1	4%	1	4%
2学部	2	10%	1	4%	3	16%	2	9%	2	7%	3	12%	2	8%
3学部	7	33%	7	30%	5	26%	6	26%	5	17%	5	19%	8	31%
4学部	6	29%	11	48%	5	26%	6	26%	8	28%	3	12%	7	27%
5学部	5	24%	3	13%	4	21%	4	17%	5	17%	12	46%	7	27%
6学部			1	4%			4	17%	8	28%	2	8%	1	4%
7学部							1	4%						
計	21	100%	23	100%	19	100%	23	100%	29	100%	26	100%	26	100%
平均学部	3.6		3.8		3.3		4.2		4.3		4.1		3.8	

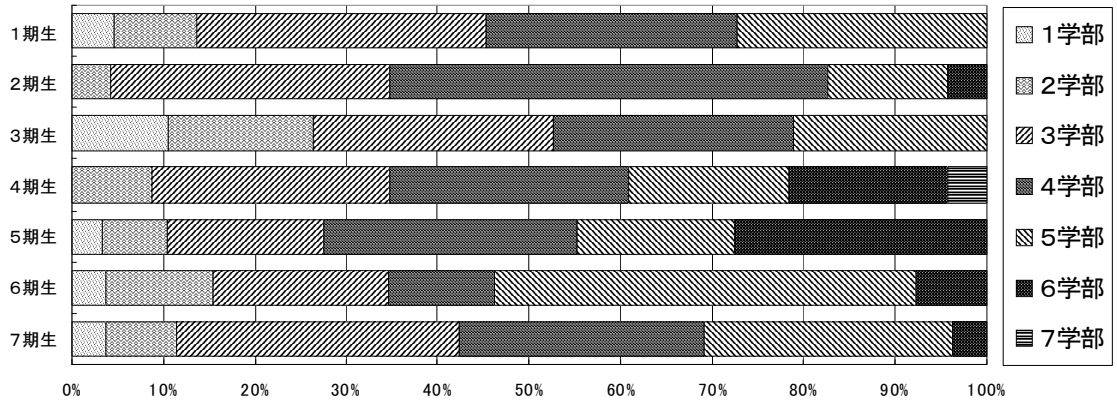

図１　単位取得学部数割合

2 専攻教育の単位取得学部数

21cp の特徴は，学生が自らの意思に基づいて学部横断的に科目履修をし，自分の専門を構築していく点にある。そこでまず，どの範囲で科目選択を行っているか単位取得学部数の観点から検討する。学生の履修状況を分析するにあたって，ここでは専攻教育において単位を取得した科目のみを分析対象とし，未取得や未受験は除外した。また，調査時期が前期を終了した時点であるので，各期とも４年次前期までの３年半の間に履修した科目を調査対象としている。

学生の履修範囲を示すものとして，学生が単位を取得した学部数の分布を表１に示す。年度によって単位取得学部数は異なるが，最少は１学部，最多は７学部であり，平均では４学部弱となっている。これらをグラフにした図１からも判るように，４学部以上から単位を取得した者が半数を超えている（ただし，３期生だけは 47%）。第４期生や第５期生では６学部以上からの取得した者が２割以上いたが，近年は減少傾向にあるようである。

次に，学部系統別での履修動向を表２に示す。九州大学には文系学部が４学部，理系学部が７学部あるが，これらをどの様にまたがって単位を取得しているかを調べたものである。これも年度によって異なるものの，文系学部を中心に取得している学生が多いことは共通している。

3 学部毎の単位取得数

では具体的にどの学部で単位を取得しているかを見てみるために，学部毎での取得単位数を分析し，履修の全体傾向を把握する。図２に，学部別の単位取得率（＝各学部における単位取得人数／学年の学生総数）を示す。これはどの位の割合の学生がそれぞれの学部の単位を取得したかを示したものである。表２でも指摘したように，全体的に文系学部での単位取得が多く，ここでもその様子が顕著に見受けられる。中でも，８割前後の学生が文学部から単位を取得しており，一方，理系学部では，芸術工学部の履修が増加傾向にあ

表２　文系・理系からみた履修動向

	1期生	2期生	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生
文系学部でのみで単位を取得	43%	22%	37%	22%	17%	35%	23%
文系･理系学部にまたがって単位を取得(文系学部が半数以上)	19%	44%	32%	39%	45%	50%	69%
文系･理系学部でまたがって単位を取得(理系学部が半数以上)	33%	35%	16%	35%	28%	15%	8%
理系学部でのみで単位を取得	5%	0%	16%	4%	10%	0%	0%

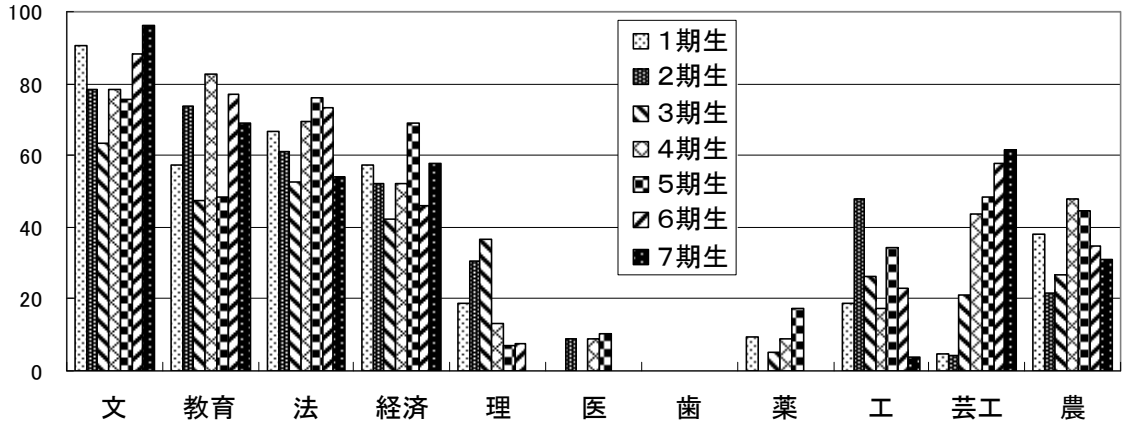

図２　各学部における単位取得率

表３　履修タイプ別の履修単位における各学部の割合（%）

	No	文	教	法	経	理	工	芸	農	文系	理系	卒論受入部局
専門型	1	100	0	0	0	0	0	0	0	100	0	人文科学研究院
	2	92	8	0	0	0	0	0	0	100	0	—
	3	83	13	4	0	0	0	0	0	100	0	人文科学研究院
	4	21	7	71	0	0	0	0	0	100	0	法学研究院
	5	0	81	4	7	0	7	0	0	93	7	人間環境学研究院
	6	7	0	4	0	81	0	4	4	11	89	理学研究院
	7	3	3	0	0	80	0	7	7	7	93	医学研究院
複合型	8	67	10	24	0	0	0	0	0	100	0	法学研究院
	9	53	47	0	0	0	0	0	0	100	0	—
	10	45	50	5	0	0	0	0	0	100	0	人間環境学研究院
	11	31	69	0	0	0	0	0	0	100	0	留学生センター
	12	9	50	23	9	0	9	0	0	91	9	人間環境学研究院
	13	0	5	0	58	0	0	32	5	63	37	経済学研究院
	14	5	0	11	0	0	16	63	5	16	84	芸術工学研究院
ゼネラリスト型	15	33	24	43	0	0	0	0	0	100	0	法学研究院
	16	29	6	41	18	0	0	6	0	94	6	比較社会文化研究院
	17	30	25	35	0	0	0	10	0	90	10	法学研究院
	18	10	25	10	40	0	0	15	0	85	15	経済学研究院
	19	31	0	6	38	0	0	13	13	75	25	経済学研究院
	20	36	4	16	12	0	0	32	0	68	32	比較社会文化研究院
	21	22	17	17	11	0	6	28	0	67	33	—
	22	13	0	4	48	0	0	4	30	65	35	経済学研究院
	23	11	0	7	37	0	0	11	33	56	44	農学研究院
	24	23	8	0	23	0	8	8	31	54	46	—
	25	32	5	11	5	0	0	47	0	53	47	芸術工学研究院
	26	0	36	11	0	0	7	29	18	46	54	人間環境学研究院

る。医系学部での履修は少ない。

4 履修タイプ

学生がどの学部の単位を取得して卒業していくかを体系的にとらえるために，各学部における単位取得の特徴から，学生を以下の３つのタイプに類型化しした。

① 専門型：特定の１学部における取得単位が 70 %以上を占める者
② 複合型：特定の１学部の取得単位が５割強程度の者

表４　履修タイプ（人数および割合）

	1期生		2期生		3期生		4期生		5期生		6期生		7期生	
専門型	7名	33%	6名	26%	8名	42%	5名	22%	9名	31%	7名	27%	4名	15%
複合型	7名	33%	9名	39%	5名	26%	9名	39%	10名	35%	7名	27%	16名	62%
ゼネラリスト型	7名	33%	8名	35%	6名	32%	9名	39%	10名	35%	12名	46%	6名	23%

③　ゼネラリスト型：取得単位の内，5割を越える特定学部を持たない者

まず，各タイプをイメージし易いように，第6期生を例に，個々の学生がどの学部で単位を取得してきたかを表3に示すと共に，卒論の受け入れ部局名を右端に記しておく。部局名が記されていない者は，3年次終了時点で卒論に取りかかることができなかった者である。

これを見ると，それぞれのタイプにおいてどの様なブロックで履修しているかが判り，21cp の学部横断的な修学を個々人でどの様に具現化しているかが把握できる。第1期生から第7期生まででそれぞれにこのような表を作成し，まとめたものが表4である。これも期によってかなり傾向に違いがあり，系統的な把握は難しそうである。

また，この履修タイプごとの修学特性を分析するために，平均履修学部数と取得単位全体に占める文系科目の割合を計算した（表5)。この表で判ることは，平均単位取得学部数は「ゼネラリスト型　＞　複合型　＞　専門型」の順で履修学部数が多い（ただし，第4期生は一部異なっている）。また，どのタイプでも文系学部で単位を取得する割合が高く，ゼネラリスト型においてはその傾向が強い。

表６　卒業後の進路（人数と割合）

進学	本学大学院	41	26%
	国内他大学大学院	24	15%
	外国の大学院	5	3%
官公庁		10	6%
企業		60	39%
その他		15	10%

なお，参考までに第7期生までの卒業後の進路を表6に挙げておく。21cp では専攻を確定するのが，3年次終了段階であり，通常の学部入学をしてくる学生よりも3年程度決定が遅いため，専門性を高めるためにも大学院への進学を推奨している。実際の卒業後の進路を見ると，卒業生の半数近くが大学院に進学していることがわかる。しかも，本学大学院や国内の他大学大学院のみならず外国の大学院にも進学している。ここまで見てきたように 21cp の学生は文系の学部で修学する傾向が強いが，当該文系学部に入学してきた学生と比して，大学院進学率が高いことが分かっている。

5 在学生の履修状況

ここまでは卒業を迎えた学生の履修状況を

表５　履修タイプ別の平均履修学部数，および取得単位全体に占める文系科目の割合

	平均履修学部数							取得単位全体に占める文系科目の割合						
	1期生	2期生	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	1期生	2期生	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生
専門型	3.1	3.2	2.8	4.0	3.6	3.3	2.3	52%	72%	61%	37%	39%	73%	74%
複合型	3.4	3.7	3.0	3.8	4.3	3.4	3.8	78%	78%	68%	59%	63%	81%	84%
ゼネラリスト型	4.1	4.5	4.3	4.8	5.0	4.9	4.7	71%	69%	77%	80%	82%	71%	83%
平均	3.6	3.8	3.3	4.2	4.3	4.1	3.8	68%	73%	69%	63%	63%	74%	83%

表７　第８期生の履修状況（２年半の間に履修した科目）

			登録単位数			取得単位数			単位取得率			単位取得科目平均点		
		人数	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
全学教育科目	教養科目	27	18	54	25.6	6	30	20.9	13%	100%	88%	66.8	91.8	79.6
	言語科目	27	11	22	13.9	3	20	11.9	20%	100%	87%	63.0	91.5	78.5
	健康・スポーツ	27	2	8	3.0	1	4	2.7	13%	100%	94%	69.0	93.3	83.3
	基礎科学	24	2	32	9.8	2	30	8.8	15%	100%	93%	62.0	90.0	77.6
	情報処理	25	1	3	1.1	1	1	1.0	100%	100%	100%	63.0	91.0	81.1
	小計	27	38	86	53.1	13	69	44.2	15%	100%	87%	68.9	90.1	79.1
専攻教育科目	21cp独自科目	27	20	37	27.4	15	27	25.4	41%	100%	94%	74.8	92.2	85.7
	他学部	25	12	67	45.2	6	56	38.7	20%	100%	81%	73.2	86.4	79.4
	小計	27	32	94	70.9	15	83	61.3	39%	100%	84%	75.0	88.6	82.6
総計		27	94	154	124.0	28	146	105.4	23%	100%	85%	72.9	89.3	81.0

表８　第９期生の履修状況（１年半の間に履修した科目）

			登録単位数			取得単位数			単位取得率			単位取得科目平均点		
		人数	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
全学教育科目	教養科目	27	18	32	23.9	18	32	22.6	63%	100%	95%	67.4	90.0	83.1
	言語科目	27	10	33	13.4	5	31	12.0	45%	100%	89%	68.7	92.0	80.3
	健康・スポーツ	27	2	4	2.7	2	4	2.7	100%	100%	100%	68.0	94.5	84.2
	基礎科学	24	2	24	8.3	2	24	8.6	0%	100%	91%	62.5	90.0	76.8
	情報処理	27	1	1	1.0	1	1	1.0	100%	100%	100%	60.0	100.0	78.8
	小計	27	39	67	49.0	30	66	45.9	63%	100%	94%	69.2	89.8	81.1
専攻教育科目	21cp独自科目	27	17	24	20.0	17	24	19.8	90%	100%	99%	71.5	93.1	86.2
	他学部	23	3	17	11.0	3	17	10.4	50%	100%	93%	69.7	92.5	82.5
	小計	27	19	37	29.4	18	37	28.6	79%	100%	97%	71.5	90.9	85.2
総計		27	58	103	78.3	49	103	74.6	68%	100%	95%	71.9	90.2	82.7

表９　第８期生の履修状況（１年半の間に履修した科目）

			登録単位数			取得単位数			単位取得率			単位取得科目平均点		
		人数	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
全学教育科目	教養科目	27	18	36	22.9	2	30	20.1	8%	100%	89%	66.8	91.8	79.4
	言語科目	27	10	19	12.1	3	19	10.6	27%	100%	88%	63.0	91.4	78.0
	健康・スポーツ	27	2	6	2.9	1	4	2.7	17%	100%	94%	69.0	93.3	83.3
	基礎科学	23	2	32	9.9	2	30	9.0	0%	100%	86%	62.0	95.0	77.8
	情報処理	25	1	1	1.0	1	1	1.0	0%	100%	93%	63.0	91.0	81.1
	小計	27	36	72	48.2	9	68	41.9	17%	100%	88%	68.2	90.2	78.8
専攻教育科目	21cp独自科目	27	9	24	19.4	7	20	18.8	29%	100%	94%	74.5	92.5	85.0
	他学部	25	2	20	12.1	2	18	10.5	0%	100%	84%	68.2	89.6	78.9
	小計	27	22	40	30.7	7	38	28.1	29%	100%	89%	74.5	90.7	83.2
総計		27	60	107	78.9	16	103	70.0	21%	100%	88%	70.7	90.4	80.6

見てきたが，この節では，現在 4 年生である第 8 期生 27 名（在籍者は転課程 2 名を含む 29 名），および現在 3 年生である第 9 期生 27 名（同 28 名）について彼らの履修状況を把握する。第 8 期生は現在得られる 3 年前期までの成績を，また，第 9 期生は同様に 2 年前期までの成績を用いた。全学教育科目と専攻教育科目について登録単位数，取得単位数，単位取得率，および単位取得科目平均点の観点から履修状況を把握する（表 7，表 8)。

21cp 課程では，入学直後から 21cp の専攻教育科目である「 21cp 独自科目」を履修するものの最初の 1 年間は主に全学教育科目を

表１０　８期生の
単位取得学部数

単位取得学部数	8期生	
	人数	割合
0学部	2	7%
1学部	2	7%
2学部	4	15%
3学部	9	33%
4学部	7	26%
5学部	2	7%
6学部	1	4%
計	27	100%
平均学部	3.0	

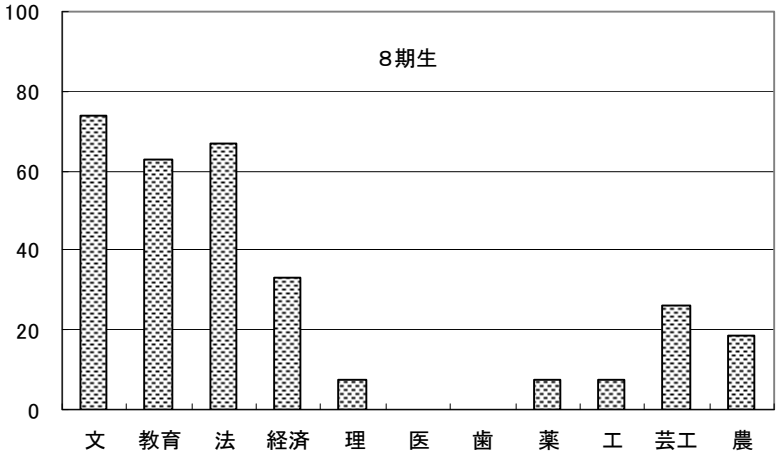

図３　第８期生の各学部における履修傾向

中心に履修するので，第９期生が 11 の学部で開講されている専攻教育科目を履修することはまだ少ない。参考までに，第８期生の同時期の履修状況も集計してみたが（表9)，第９期生のそれ（表8)とほぼ同じであることが判る。２年半を経過した第８期生の履修状況を見ると，２年次以降は履修の中心が全学教育科目から専攻教育科目に移行していることが判る。

第８期生の履修動向をより詳細に見るために，この時点での専攻教育の単位取得学部数や各学部における履修傾向を表 10 と図３に示す。これを卒業生のそれら（表１，図２）と比較すると，履修期間が１年間短いとはいえ，単位取得学部数は最大で６学部となっており，また，文系学部での履修が多い傾向にあるのも同様である。第８期生の単位取得平均学部数が 3.0 学部で，第７期生までのそれが　4 学部前後であることから，残り１年でこの差を埋めるべく履修を続けていくであろうことが予想される。

6 まとめ

開設して 10 年が経過したことを機会に，今回我々は，学部横断型教育を行っている 21cp の履修状況を調べた。個々の学生が自分の興味・関心に基づいて 11 の学部で開設されている講義を履修しており，21cp として代表的な履修パターンというものは存在しなかった。そうした中で，傾向として捉えられたことは，

ａ）文系４学部での履修が多い。これは履修形態が理系に比べて比較的積み上げ型学習を要しないことが要因と思われる。文系の中では文学部での履修が多い。
ｂ）理系学部の中では，芸術工学部での履修が多い。芸術工学部は，第４期生入学と同時に大学統合により発足した学部だが，芸術工学部そのものがデザインというコンセプトの基に文系・理系にまたがる学際的な学部であることによると思われる。
ｃ）医系学部での履修は少ない。
ｄ）４学部以上の学部から単位を取得している者が半数以上を占めている。
ｅ）単位取得した学部数の特徴から学生を３つのタイプに分類した。その結果，平均履修学部数でみると「ゼネラリスト型　＞　複合型　＞　専門型」の順で多く，また，文系学部での単位取得率も概ねこの順に高い。

また，在学生については，年次進行の履修動向を学期ごとに把握しておくことにより，何らかの原因で修学の意欲を失っている学生

の早期発見に役立ち，助言を与える際の参考にできることが期待できる。

今回は紙面の都合で報告には含めていないが，入学者は海外への関心も高く，卒業までに約半数が実際に留学経験を有しており，近年の内向き志向の風潮の中にあって特徴的である。

その他として，今回の調査結果を選抜に活かすことも計画している。 21cp の選抜時には， 3 つの講義（各 50 分）を提示して，それぞれに対するレポートや集団討論を行うのだが，個々に異なった興味・関心を持った受験者に対応し，またトピックの重複を避けるために，人文，社会，自然という 3 領域の講義を毎年準備して実施している。受験者はこの中から 1 つを選んで小論文を書くことになる。入試での領域ごとの選択率を調べたところ，これまで 11 回の何れでも自然をテーマとした講義に取り組む受験者が少ないことが判った。今回調べたように入学後に選択する講義も，人文と社会（いわゆる文系）が多い傾向にあり，この状況が入試にも原因があるとするならば，選抜方法を修正することによって文系・理系の比率の偏りを是正できるのではないかと考えられ，現在，その対応を検討しているところである。

また，「専門性の高いゼネラリスト」を実現するためには，過去の事例にとらわれることなく，学んだことを土台に自分で考えて行動する習慣を持った学生に入学してきて欲しいと考えている。そのためにも入試では提示された課題に自分の考えで解答でき，また，集団討論や面接では自分の言葉で自説を丁寧に紹介できる学生が望まれ，このような受験者に高い評価を与えられる入試方法の開発が必要である。入試というものは選抜方法を固定化してしまうと，それに適応した志願者が集まってくる傾向にあるので，今回の調査結果を参考にして，少しずつ改良を加えていき“新鮮”な志願者を常に集める努力が必要であると感じている。例えば，志願者が受験対策を行うことによって入学が可能になるような入試を行い続け，そのことが志願者間に知れ渡ると，受験対策に長けた者ばかりが応募・入学してくることになり，画一的な入学者ばかりとなってしまい兼ねない。これまで個々に特徴を持った入学者を確保できてきたが，彼らとはまた異なった別の視点を有した入学者を確保し続けるためにも受験対策が効かないことを印象付ける入試を実施していく必要がある。高校側からは対策が取り辛い入試ということで敬遠され，また，生徒に受験を薦めてくれなくなる可能性もあるが，今後も入学してきてほしい学生像や 21cp 開設の理念を丁寧に説明して理解を深めてもらい志願者を拡大していくつもりである。

今回の調査を通して， 21cp 開設時に掲げた 3 つの教育理念に沿った入学者が確保できていることが判った。しかし，何れにしても 25 名程度の少人数にも関わらず多様な学生が在籍するプログラムであるので，教育憲章に掲げた原則や 21cp の理念を具現化すべく，今後も継続的に調査と評価を続け，より良い運営を行うための資料を蓄積していきたいと考えている。

参考文献

九州大学２１世紀プログラム自己点検・評価委員会編 (2011), 九州大学２１世紀プログラム自己点検・評価報告書.